

上4日1時40分迄釣獲し約400斤を魚獲す。餌付至つて不良操業を止め捕途に就く。

(3) 酵素餌屑餌料に依る釣獲試験

本試験中2回は撒餌の節減方法として酵素餌屑餌料による釣獲試験を実施し自良好なる成績を挙げ得た(総漁獲高3195斤)

「目的」

魚漁場の移動状況並に海況を調査すると同時に餌料の節減方法として酵素餌屑を普通餌料(さんま摺身)に混合したのと其儘にしたのとの比較試験に重点を於いて釣獲試験を実施した。

試験の方法

混合餌料と普通餌料とを時間的に交互に撒布したが今回の試験では同等遜色はなかつた。

操業時間

12月7日18時20分~釣獲試験を開始し翌8日6時40分迄(12時間20分)実施したが朝の張餌状態は始終同一な状態であり良好であつた。

(普通の場合は夕方悪く朝方良好となる)

魚場位置 —28°—00'N 125°—00'E

海況 水温前月より低下し20.8℃を示す

魚況

18時点灯同18時20分餌屑浮上と同時に釣獲を始める餌付良好最初は撒餌に酵素餌屑を混入せずさんま摺身のみを用い22時まで、次よりさんま5ケースに5升の酵素餌屑を混入して撒餌したが餌付状態に変化なく良好であつたので8日7時まで試験続行した。(製法、その他に就いては別項で記述する)

12月3日12時18分泊港出港 14時40分渡嘉敷港入港漁夫備入(1

2月4日11時45分同港出港東支那海に向ふ17時久米島北端に逆行風波次第に高まる。21時高波右舷に突入機艙室に多少浸水したが直ちに除水に努力したため大事に至らず採水ポンプ折損酵素餌屑2斗たるがかいす。

12月5日10時50分風波強く航走25~3節しか出ず漁場に行くのに見込みなしやむを得ず渡嘉敷港へ向け引返す。

12月5日5時30分渡嘉敷港入港10時50分天候稍風たので再び漁場に向け出港す。